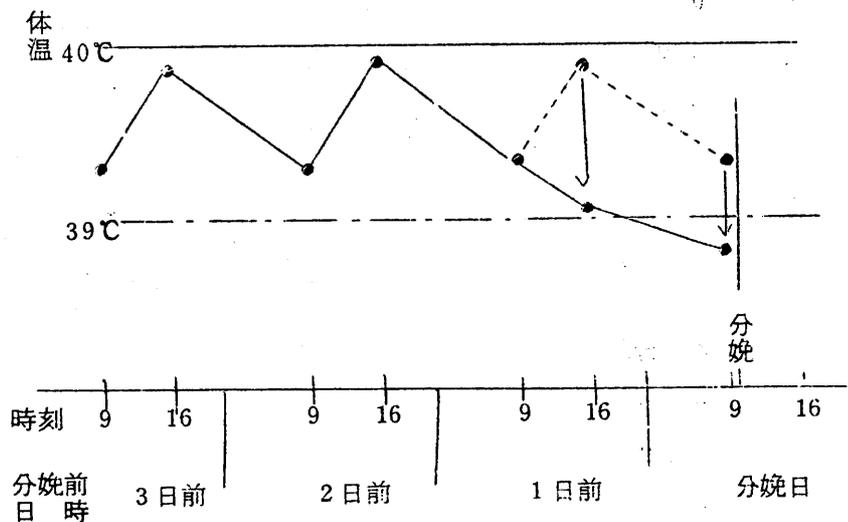


分娩直前の体温降下例（……線は分娩が未だとしたときの仮想体温）



### 3 指導上の留意点

- 1) 体温測定時間は毎日決めた時間に朝夕行うこと。  
定時は牛が安静時間帯とすること。
- 2) 検温値に異常値が出たら必ず再検温して、その真偽を確かめること。
- 3) 体温が急に上昇したら、難産の疑いもあるから特に注意すること。
- 4) この予知法は経産牛にも適用する。

### 4 関連試験課題名

乳用牛の早期繁殖に関する試験（昭48～52 岩手畜試）

### 5 参考資料

試験成績概要報告書 52年度 岩手県畜産試験場  
酪農ハンドブック 養賢堂

## 3 日本短角種離乳子牛の体重補正

### 1 背景と特徴

子牛の発育で、母牛の哺育能力、父牛の能力判定、牧野条件を比較することができる。

現在、日本短角種の子牛は月令や性、母牛の年令などに関係なく、現状で比較しているのが一般的である。しかし、月令、性、母牛の年令により子牛の発育値が異なっているので、その補正值について検討し、1つの目安を得た。

### 2 技術の内容

#### 1) 日令の補正

$$210 \text{ 日令体重} = \text{生時体重} + \frac{\text{実際の体重} - \text{生時体重}}{\text{体重測定日の生後日令}} \times 210$$

生時体重を測定していない場合は、35kgとして計算

2) 性による補正

雄の場合 0  
 (去勢の # + 4 kg)  
 雌の # + 18 kg

3) 生れた月による補正

3月生れ 0  
 4月生れ + 6 kg

4) 母牛の年齢に対する補正

子牛出産時の母牛の明け年齢

3才 + 20 kg  
 4 + 12  
 5 - 4  
 6 - 7  
 7 - 9  
 8~10 - 15

5) 補正值の計算例

	A 牛	B 牛
	生後 205 日、体重 180 kg、性 ♀ 4 月生れ、母牛は明け 3 才	生後 230 日、体重 250 kg、性 ♂ 3 月生れ、母牛は明け 8 才
(1) 日令の補正	$35 + \frac{180 - 35}{205} \times 210 = 184 \text{ kg (A)}$	$35 + \frac{250 - 35}{230} \times 210 = 231 \text{ kg}$
(2) 性による補正	+ 18 (B)	0
(3) 生まれた月による補正	+ 6 (C)	0
(4) 母牛の年齢に対する補正	+ 20 (D)	- 15
補正值 (♂ の 3 月生れの 210 日令の体重)	$A + B + C + D = 228 \text{ kg}$	216 kg

3 指導上の留意点

- 1) 放牧体系による春産の子牛についての補正值である。
- 2) 母牛の哺育能力の比較、父牛の能力判定、牧野の条件の比較、等に使用できると思われる。
- 3) 計算の根拠 農林計算センター 登録番号 1-27

副次級内観測値数が不揃いな、三重分類データの解析 (横内園生)

4 関連試験課題名

5 参考資料